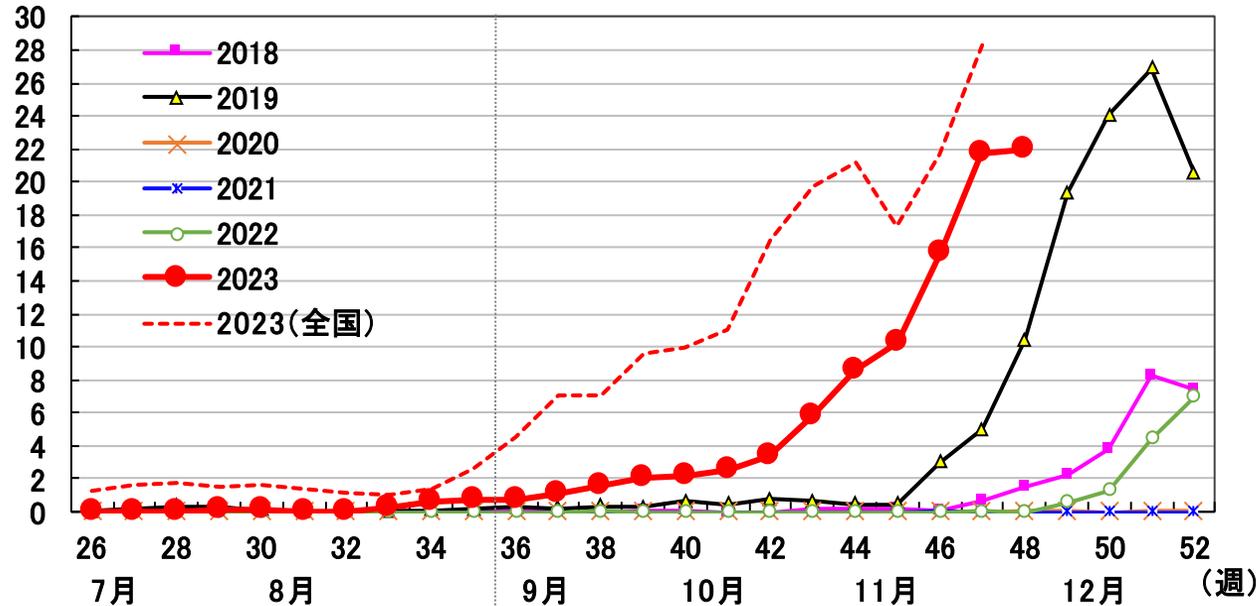


インフルエンザの発生状況(富山県)

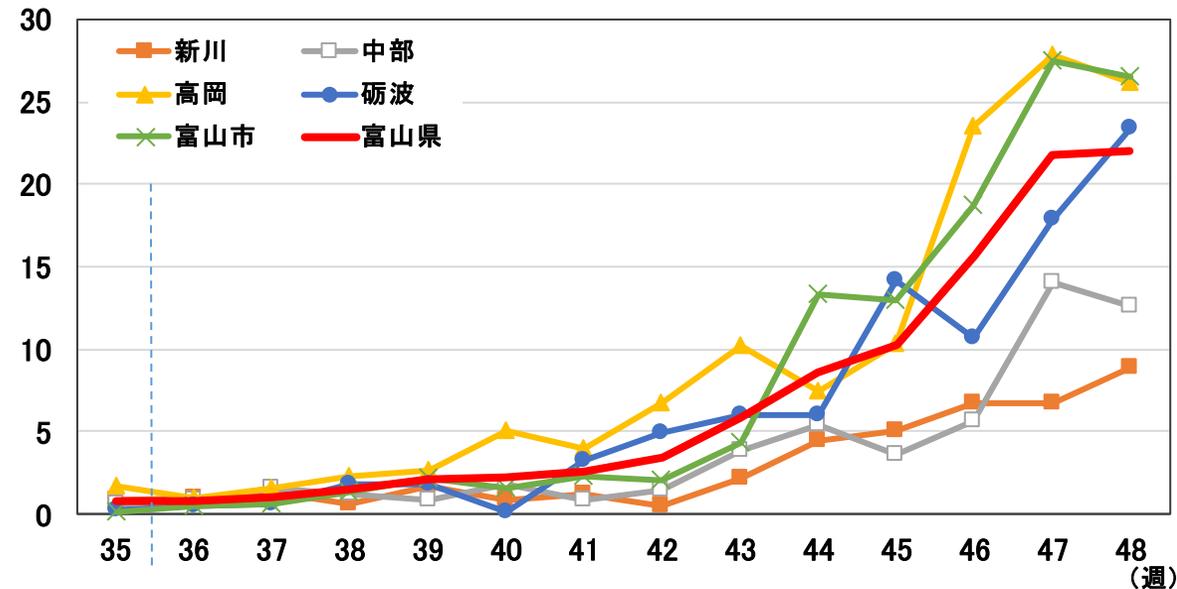
【第48週(2023/11/27~12/3) 感染症発生動向調査速報値 (2023/12/6時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数は今週（第48週）21.96人/定点となり、先週（21.73人/定点）から横ばいであった。
- 厚生センター・保健所別に見ると（図2）、砺波管内で増加し、その他の管内ではほぼ横ばいであった。新川管内以外では、注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。

図3. 年代別割合(富山県、第48週)

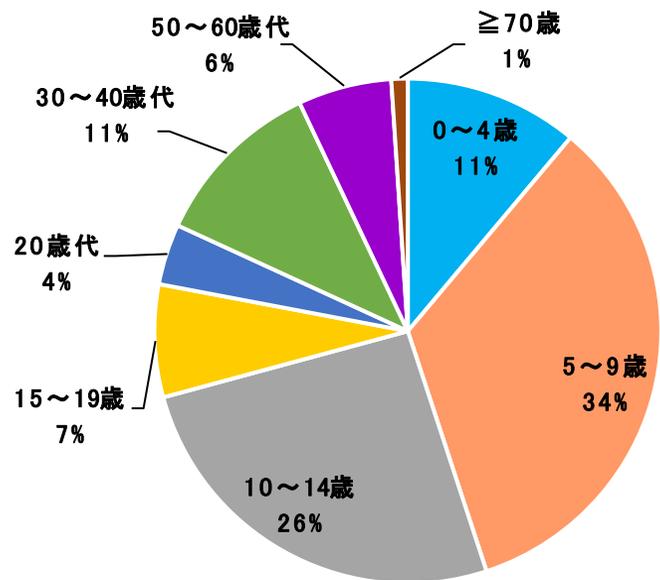
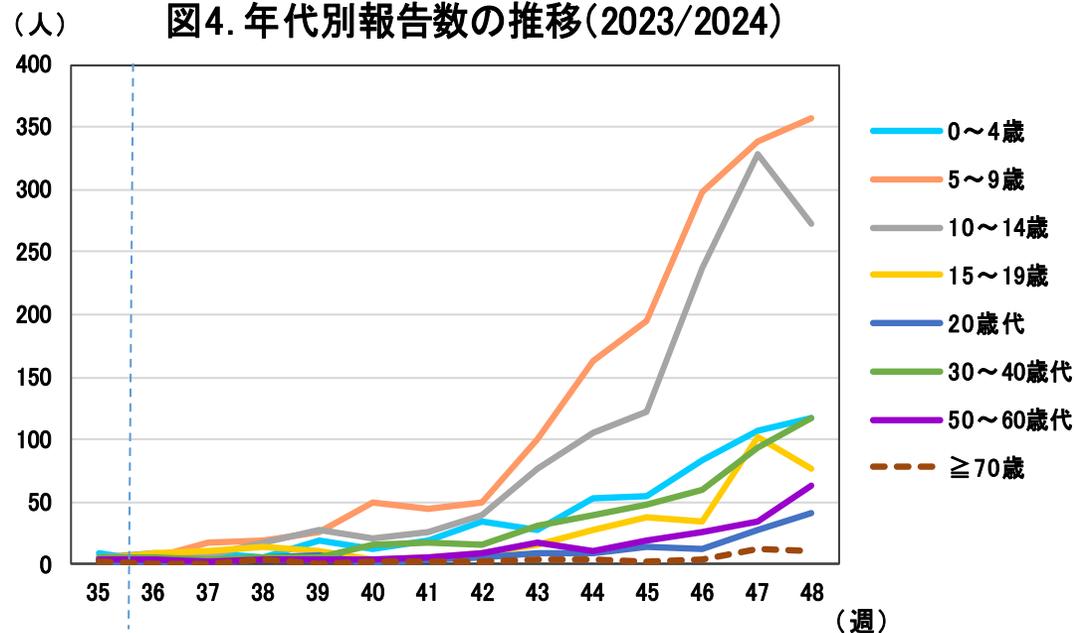


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第48週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が71%を占めた。
- 年代別報告数の推移（図4）では、10~14歳（グレー）、15~19歳（黄）で減少し、その他の年代では横ばいであった。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は第48週に27件（小学校20件、中学校2件、高等学校3件、その他2件）の報告があった。

富山県インフルエンザ関連情報HP：<https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/kenkou/iryuu/kj00007295.html>

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第47週)

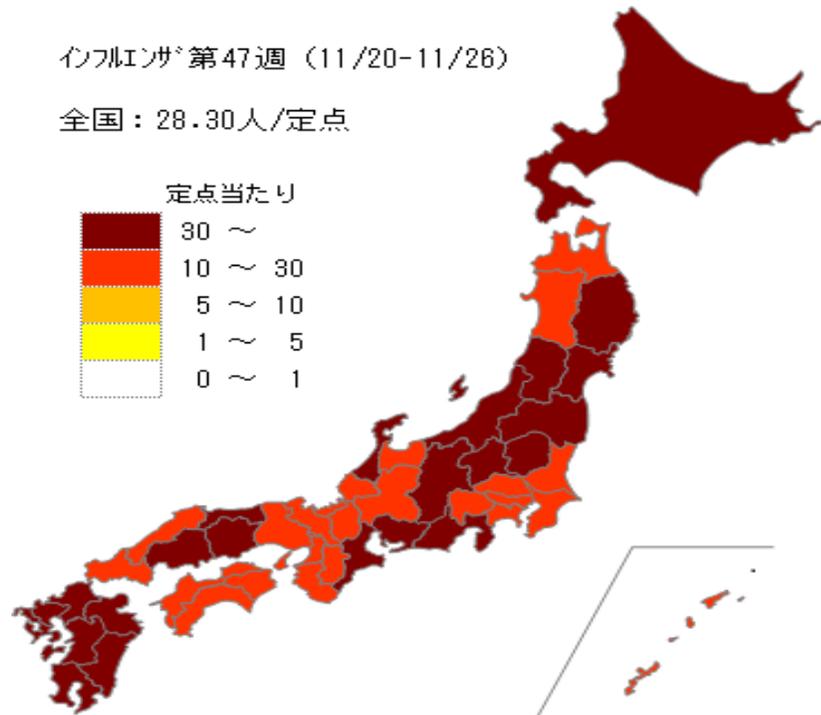
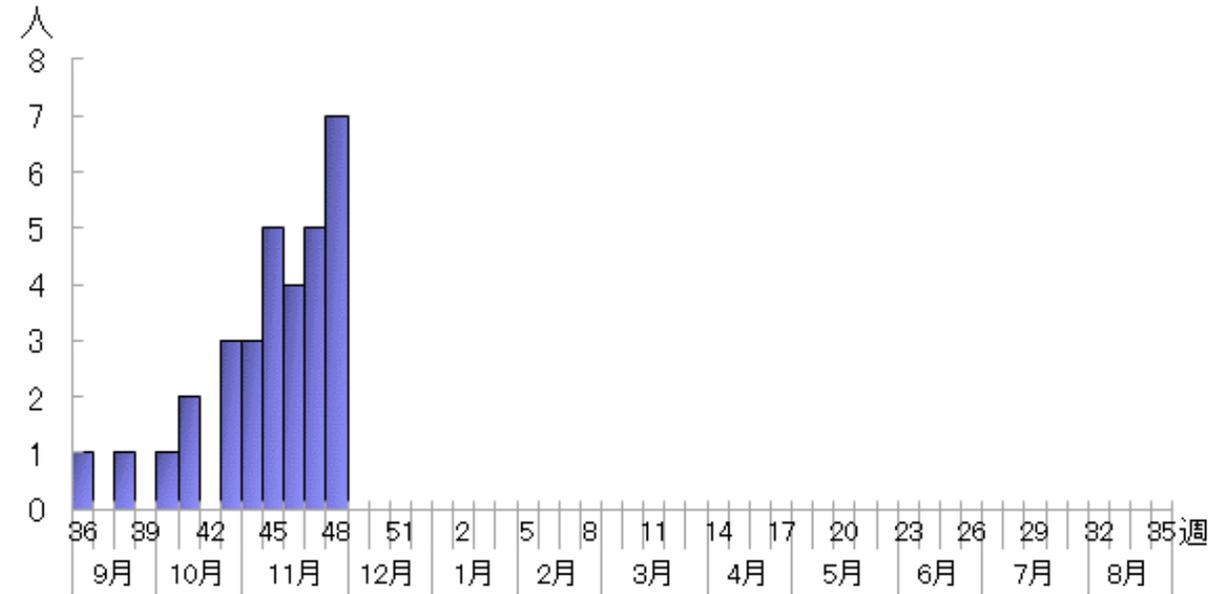


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第48週)



- 全国では第47週に28.30人/定点となり、第46週（21.66）から増加した。都道府県別（図5）では、全ての都道府県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。また、そのうち23道府県で警報レベルの目安である30人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第48週に7例の報告（5歳未満：2例、10歳代：1例、50歳代：2例、70歳代：1例、80歳代：1例）があった。
- 今シーズンは、例年より早期にインフルエンザの流行が認められた。患者報告数の増加が続いており、今後の発生動向を注視する必要がある。